

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票（令和4年度事業）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考				
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値			
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	令和4年度実績	1件	4	B	館設定の目標値は、館への寄付申込があったもののうち、館が受け入れを認めたものの件数			
					館設定の目標	1件						
			2	資料の情報化・公開実績	令和4年度実績	0点	1			館設定の目標値は、資料の受け入れ数（2月に受け入れたため情報化を年度内に行えなかった）		
					館設定の目標	1点						
			3	資料の保守・管理の実施	令和4年度実績	53回	4				館設定の目標値は、概ね週1回保守・管理作業を実施するよう設定	
					館設定の目標	53回						
		4	館外貸出（外部機関等展示等）	令和4年度実績	1件	4	~travelling museum~博物館倶楽部					
				要望のあった件数	1件							
		5	館内利用（学術調査等）	令和4年度実績	1件	4		名古屋市科学館				
				要望のあった件数	1件							
		6	著作物資料への利用（出版物掲載等）	令和4年度実績	2件	4			月刊コロンプス、京成ライン			
				要望のあった件数	2件							
		調査研究	7	調査事業件数	件数	令和4年度実績	6件			4	A	100選・研究報告
						館の計画	6件					
			8	共同調査事業件数	件数	令和4年度実績	0件	4		研究報告		
						館設定の目標	0件					
			9	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和4年度実績	2件	4				
						前年度実績	2件					
大項目Iの総合評価（A～D）						A						
博物館コメント	<p>・「伝えたい千葉の産業技術100選」と題し、千葉県における歴史的産業技術を次世代へ継承することを目的として、調査研究を継続している。引き続き調査、認定を進め、周知に努める。</p> <p>・展示資料を適切に維持管理することにより、実験装置等の稼働率を向上させた。今後も利用者の満足度を高めるよう努める。</p>											

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値				
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和4年度実績	89,860人	4	A	令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「どこでもプラネタリウム」と題し、YouTube配信によるオンラインで実施
						前年度実績	39,446人			
			2	企画展 ネジる ツナがる -モノ×ネジ×ヒト-	入館者数	令和4年度実績	9,107人	4		
						前年度実績	4,694人			
			3	企画展 プラネタリウム上映会	入館者数	令和4年度実績	9,962人	4		
						前年度実績	0人			
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和4年度実績	4回	4		
						4回				
						企画展 ネジる ツナがる -モノ×ネジ×ヒト-	実施回数			
1回										
6	トピックス展等	実施回数	令和4年度実績	19回	4					
			19回							
総合的な満足度	7	常設展示	アンケート満足度 「非常に満足」+ 「満足」の割合	令和4年度実績		4	A			
				8	企画展 ネジる ツナがる -モノ×ネジ×ヒト-			令和4年度実績	94%	
				9	トピックス展等			令和4年度実績		
大項目IIの総合評価 (A~D)							A			
博物館コメント	<p>・新型コロナウイルス感染防止に努めながら社会経済活動を徐々に再開していく時期にあり、館内各所に、検温器や消毒液、除菌剤などを設置し、来館者の安全を図った。感染者を発生させることなく、多くの来場者を迎えることができた。</p> <p>・プラネタリウム上映会については、事前予約制導入による混雑の解消、各回の人数制限や上映会ごとの消毒等、新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、サイエンスドームでの上映を再開することができた。</p> <p>・「ねじ」をテーマとした企画展では、「医療用のねじ」、「アルキメデスの螺旋実験装置」など、普段見ることのできない展示にねじの奥深さを感じてもらえたようである。また、「ねじブロック」や「ねじ込みアート」などの、実際に触れて体験ができる展示も好評をいただいた。</p> <p>・トピックス展では宇宙に関連した展示のほか、ラジオや蒸気機関車関係、他の部局と連携したパネル展等を実施した。宇宙関係の展示は「小惑星リュウグウ」のサンプルレプリカを展示し、人気を集めた。また、ラジオや蒸気機関車関連の展示は資料の精密さ、美しさの完成度に興味・関心を集めた。</p>									
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和4年度実績	68%	2	B	令和4年度実績÷令和4年度収入見込額(予算書から)×100
						館設定の目標	100%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	令和4年度実績	1件	4		
						前年度実績	1件			
大項目IIIの総合評価 (A~D)							B			
博物館コメント	<p>・コロナにより団体入込数やプラネタリウムの入場者数を制限したため、予算収入見込額を下回った。</p> <p>・各種イベントの再開により、集客の効果があつた。特に、プラネタリウム上映会や企画展期間に有料入場者が増加した。</p>									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和4年度実績	162回	4	A
						前年度実績	106回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和4年度実績	217,920件	4	
						前年度実績	136,495件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	令和4年度実績	18件	4	
						前年度実績	9件		
大項目IVの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント		<p>・開催事業の再開に伴って、報道機関やHP等への情報発信数が伸び、結果HPアクセス数を確実に件数を伸ばすことができた。新型コロナウイルス感染症防止対策を講じつつ、徐々に緩和策を取り入れ博物館活動を再開したことが、来館者に受け入れられた効果とみられる。</p> <p>・TwitterやYouTubeチャンネルなどのSNSを利用し、展示会やイベント、演習実験動画等の情報を発信する頻度を高め、またビジュアル的にも楽しく見やすくわかりやすい内容となるよう工夫したため、多くの方にアクセスしていただいた。</p>							
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和4年度実績	80校	4	A
						前年度実績	11校		
			2	入館者数	令和4年度実績	4,817人	4		
					前年度実績	278人			
			3	生徒・児童	入館者数	令和4年度実績	5,623人	4	
		前年度実績				122人			
		4	博学連携（幼小中高への出張講座等）	学校数	令和4年度実績	10校	4		
					前年度実績	6校			
		5	利用者数	令和4年度実績	558人	4			
				前年度実績	330人				
地域関係団体との連携	6	団体数	令和4年度実績	29団体	4	A			
			前年度実績	10団体					
	7	連携・共催（大学、NPO等）	利用回数	令和4年度実績	28回		4		
				前年度実績	1回				
	8	利用者数	令和4年度実績	15,488人	4				
前年度実績			2,138人						
9	友の会活動	利用人数	令和4年度実績	0人	/				
前年度実績	0人								
10	ボランティア活動	活動延人数	令和4年度実績	303人	4				
			前年度実績	40人					
大項目Vの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント		<p>・連携事業として「展示・運営協力会」の展示会と、前年度中止となったサイエンスショー、実験工作教室を、感染症対策を施しながら開催した。</p> <p>・学校、地域との連携事業では、学校団体は団体入館の緩和を開始した9月から徐々に増加し、昨年度の8倍の受け入れとなった。また出張講座は、オンライン対応2件・対面対応8件での実施、そのほか大学連携・NPO等との連携も再開した。この活動再開にあたり、事前予約制など新しいやり方を導入し、参加者の安心安全を守りつつ、求められる要望（実施回数及び定員の増加等）に応えられるよう各事業を展開した。</p>							

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考				
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値							
VI	教育・普及活動	来館状況	1	講演会	参加者数	令和4年度実績	0人	/	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
						前年度実績	0人						
			2	公開講座	参加者数	令和4年度実績	25人	4					
						前年度実績	7人						
			3	クリスマス実験講座	参加者数	令和4年度実績	74人	3					
		前年度実績				85人							
		4	体験教室	科学館わくわく教室	参加者数	令和4年度実績	1,846人	4		A	年間実施回数27回		
						前年度実績	66人						
		5	解説ツアー		参加者数	令和4年度実績	155人	4					
						前年度実績	/						
		総合的な満足度	6	講演会	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績	/	/		A			
						7	公開講座				令和4年度実績	100%	4
						8	クリスマス実験講座				令和4年度実績	100%	4
9	体験教室		科学館わくわく教室	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績	100%	4	A					
					令和3年度実績	100%							
11	たんけん!!科学館		満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績	100%	4	A						
12	解説ツアー	令和4年度実績	100%	4									
利用状況	13	相談件数 (来館、メール、電話等)	利用件数	令和4年度実績	176件	4	A	メール3+来館2+イベント81+ブログ90					
				前年度実績	162件	4							
大項目VIの総合評価 (A~D)							A						
博物館コメント	<p>・今年度から科学館わくわく教室は年間実施回数を27回とし、換気・消毒等リスク評価を定めた上で実施した。休止していた「たいけん!!科学館」、「解説ツアー」は開催時間の短縮、人数制限を設けて再開したが、多くの参加者を集めることができた。</p> <p>・開館当初から実施している「クリスマス実験講座」では、ハンドベルを使った音についての実験を、学生ボランティアの協力で、楽しくわかりやすく行い、多くの来館者に満足していただけた。</p>												
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	令和4年度実績	7人	4	A					
					前年度実績	7人							
			2	教員等の研修	令和4年度実績	10人	4						
					前年度実績	8人							
		3	職場体験	令和4年度実績	40人	4							
				前年度実績	0人								
		4	インターンシップ	令和4年度実績	3人	4							
				前年度実績	0人								
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数	令和4年度実績	2回		4	A			
						前年度実績	2回						
6	防災訓練実施等	実施回数	令和4年度実績	2回	4								
			前年度実績	2回									
大項目VIIの総合評価 (A~D)							A						
博物館コメント	<p>・教員研修は、プラネタリウム運営に携わる業務経験、教育現場で関心度の高いプログラミング講座への参加、授業で役に立つ展示の見学など、多くのメニューを用意して参加してもらった。中学生の職場体験も再開し、館内各業務の参加見学等幅広く実施した。</p>												

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値				
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	令和4年度実績	33団体	4	A	東京都32、北海道1	
					前年度実績	0団体				
			2	外国人来館入込	令和4年度実績	100人	4			
					前年度実績	50人				
大項目VIIIの総合評価（A～D）							A			
博物館コメント	<p>・多言語対応として、当館の館内音声ガイド「不思議のたね」を英訳し、常設展示の英文解説情報をQRコードを介して提供するサービスを令和3年度から継続しており、多くの外国人来館者に活用していただいた。団体受入緩和情報をホームページで発信し、県外では東京都(江戸川区・墨田区・葛飾区等)幼稚園、小学校)からの団体入館者増加の実績を上げた。</p>									
IX	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和4年度実績	3件	4	B	You Tubeチャンネル演示実験動画新規
					前年度実績	3件				
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数	令和4年度実績	6,741回	1		令和4年度オンラインプラネタリウムからドーム内プラネタリウム上映会となったため件数が減少した。
					前年度実績	15,638回				
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数	令和4年度実績	2回	1		
					前年度実績	11回				
			4	デジタル・デバイス解消のための対策	実施回数	令和4年度実績	3件	4		ネット環境不適合対応策として、対面・電話での受け付けに加え紙媒体による案内を実施。
					前年度実績	1件				
大項目IXの総合評価（A～D）							B			
博物館コメント	<p>・館の魅力を伝えるため、演示実験の動画3番組を新たに当館公式YouTubeチャンネル上で配信した。 ・前年度オンラインで開催したプラネタリウム上映会をドーム内で開催したため、視聴数は減少し、来館者が増加した。また、公開講座では、対面とオンラインの2通りで申し込みを受け、来館できない方にもサービスを提供することができた。</p>									
X	その他	コロナウイルス感染症対策	1	館内消毒の実施等感染対策実施	令和4年度実績	305日	4	A		
					館設定3年度の目標	305日				
大項目Xの総合評価（A～D）							A			
博物館コメント	<p>・ハンズオン展示、手すり、机、いす、ドアノブなど来館者が手に触れる箇所に対して、「抗菌施工」を完了。館内各所にアルコール消毒液、除菌剤を設置した。 ・入り口にモニター型の自動検温器を設置したことで、スムーズに入館していただくことができた。</p>									
総合評価（A～D） [各達成度の平均]							A			
総合評価と次年度への対策	<p>・令和4年度は新型コロナウイルス感染が4年目を迎え、下半期徐々に感染者数が減少に転じた時期であった。その状況から、団体入館者、各種事業の人数制限の緩和が図られ、休止していた各事業を4年ぶりに再開、利用者数は増加し、感染症のため多くの制約を受けたことによる入場者数の減少は解消することができた。 ・前年度中止とした展示・運営協力会の実験工作教室及びサイエンスショーは、今年度はコロナ対策を施して開催し、同様に縮小して開催した企画展も、入場制限等は行いつつ、展示場所やワークショップなどを通常に近い方法で実施することができた。プラネタリウム上映会も3年ぶりの開催となったが、初めて事前予約システムを導入し、混雑解消の有効な手段とした。あわせて、科学館わくわく教室や展示運営協力会実験工作教室なども同様予約システムを取り入れて運営した。各事業に適切な感染防止策を講じたことにより、参加者が安心安全な状態で事業を運営することができた。 ・次年度は、SNSの利用や、事前予約システムなどコロナ禍で培った対応策を活用し、引き続き安全な館運営と事業充実の両立を図っていく。さらに文化観光拠点としての館の機能を向上させ、各種連携事業の活性化を図るとともに、科学学習の機会を多くの児童・生徒に提供することにより、博物館活動を推進していくことを目指していく。</p>									